

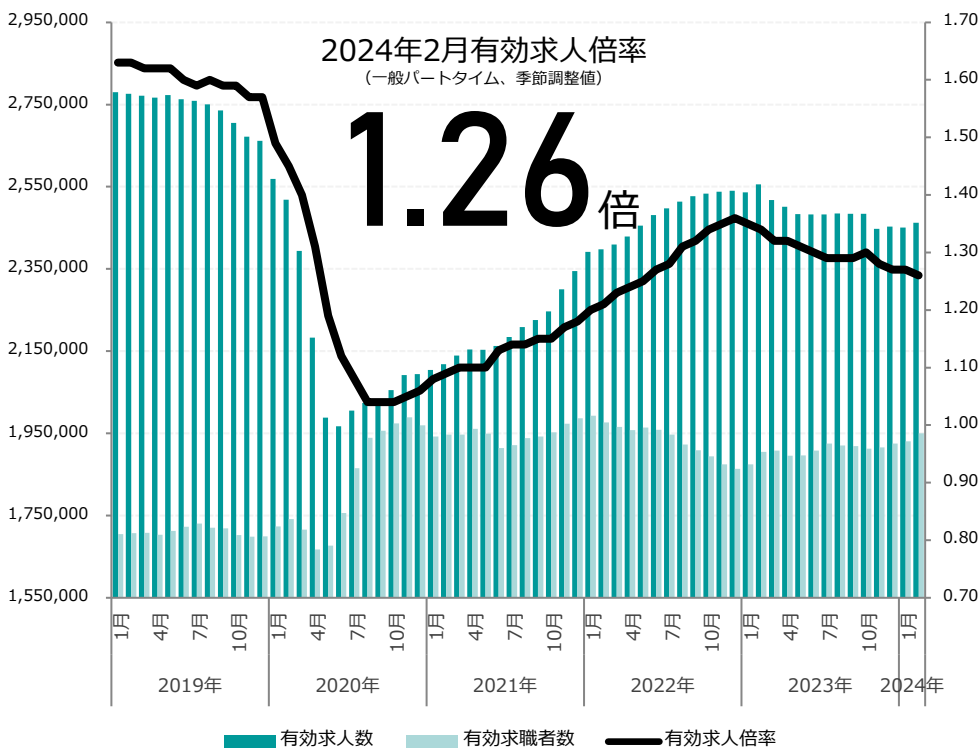
市況の変化

コロナ禍と比べて求人案件数も増え、採用難易度は増えています。

労働人口も減少しており、これまでの募集のままではなく見直しが必要になってきています。

有効求人倍率の高まり

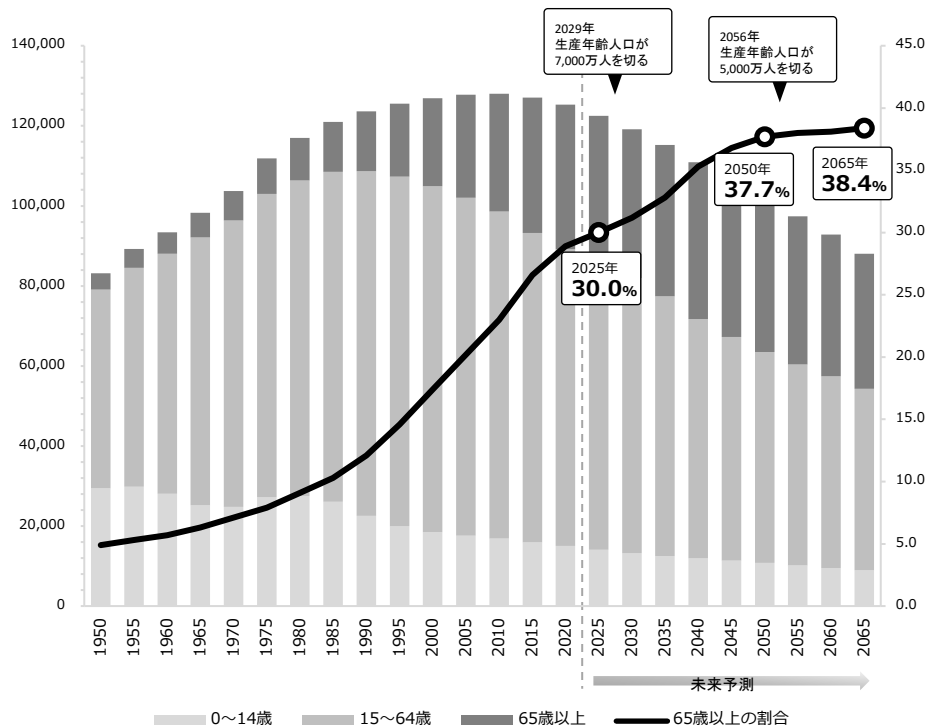
▼有効求人倍率・有効求人数・有効求職者数推移（一般パートタイム、季節調整値）



※出典：厚生労働省 一般職業紹介状況 第3表 有効求人倍率（季節調整値）、第6表 有効求人数（季節調整値）、第7表 有効求職者数（季節調整値）
※各月で発表日時点での数値を反映しております

高齢化の加速と生産年齢人口の減少

▼日本の将来推計人口



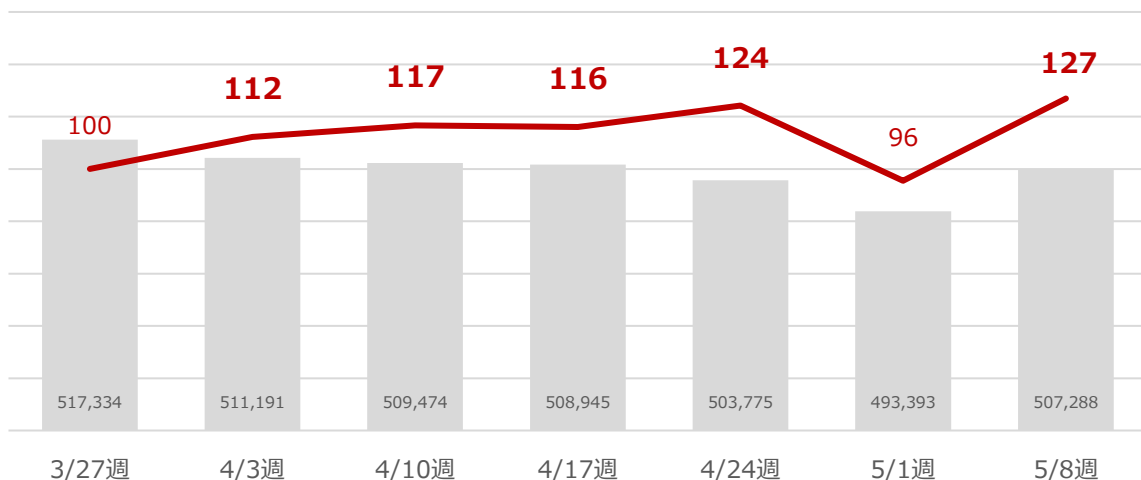
※ 出典：国立社会保障・人口問題研究所
表-1 総人口、年齢3区分（0~14歳、15~64歳、65歳以上）別人口および年齢構造係数：1947~2015年
表1-1 総数、年齢3区分（0~14歳、15~64歳、65歳以上）別総人口及び年齢構造係数；出生中位（死亡中位）推計

案件数・応募倍率からみる求人動向

昨年4月は4月1週目～GW明けまで、応募倍率は上昇傾向に。
新生活が始まり、新たな仕事探しが活発化しています。

▼バイトル 2023年案件数・応募倍率指数

平均案件数 応募倍率指数



GWの有効活用もポイント！

GW中の空き時間に仕事探しをしたり、気になる仕事をお気に入り登録する人も。GW明けの応募候補となるように、GW中も閲覧してもらえる状況をつくることも大切です。

探す

見つける

応募する

学生

新学期が開始！新1年生のバイトデビューも狙い目

新年度のカリキュラム決定に合わせて、新しいバイト探しも始まります。長く働ける新1年生のバイトデビューも狙い目。働く仲間や職場の様子、学校との両立のしやすさなどの記載がポイント。



フリーター

新たなフリーター層が出現するタイミング

進学・就職をしない卒業生に加え、GW明けには新卒リタイア層の長期アルバイト化や、GWの帰省で家族や友人に会い就業意欲が高まるなど、新たなフリーター層が出現します。



主婦・主夫

私生活の変化で新たなパート探し

上旬は子どもの進学、新学期開始が続く時期ですが、中旬以降は新生活にも慣れ、アルバイト・パート探しが本格化。シフト面を重点的に記載した原稿の打ち出しがポイントです。



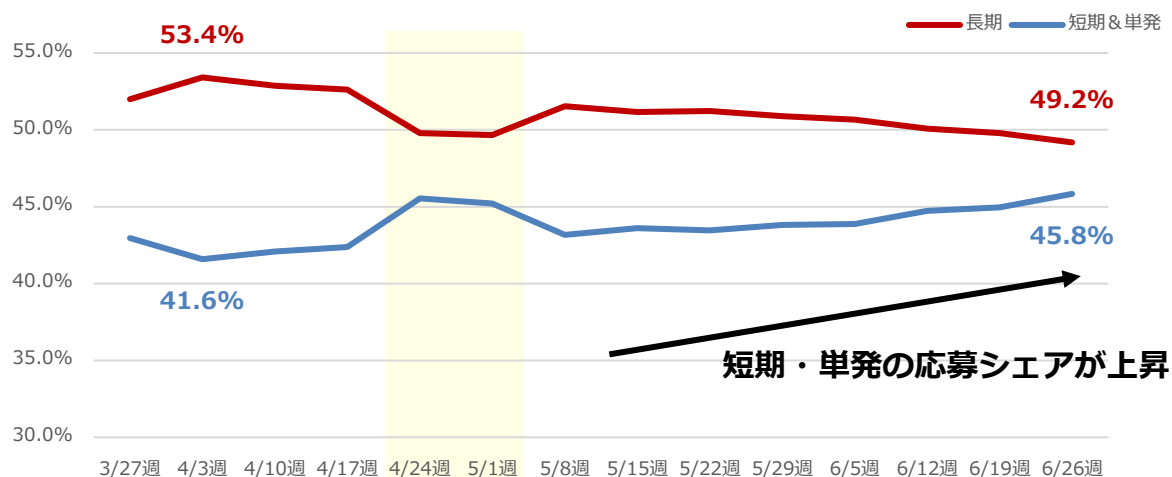
バイトル昨年同時期データ

長期／短期・単発への応募シェアからみる求人動向

4月は長期案件への応募シェアが高く、長期志向の採用が狙い目のタイミングです。

5月後半以降は短期案件が急増し、短期へ応募する傾向が高まっています。

▼バイトル 2023年 長期／短期・単発案件への応募シェア



GWの人員強化に短期・単発もおすすめ

長期休暇前は一時的に短期・単発の応募シェアが上昇。空き時間を活用したい層への訴求もポイント。

▼長期休暇の就業理由

- ・帰省する予定がなくなったから (20代)
- ・連休が暇だから (50代)
- ・経験があるから (40代)
- ・短期だけでも夢だった仕事をやりたいから (20代)
- ・生活費のため (30代・60代)

4月

長期で働きたい人の採用におすすめの時期

4月は私生活の変化に伴い、新たな働き先を探す人が増えるため、長期案件への応募シェアが高い傾向にあります。長期的に活躍できる人材の採用は、4月中がおすすめです。



5月

私生活が落ち着くGW明けを狙う人も

新しい生活にも慣れてくるGW明けに、仕事を決定する層も。6月には短期案件が急増し、短期へ応募する傾向が高まっていくため、長期の募集は早めに完了させることがおすすめです。



6月

短期で働ける案件が増加 工夫が必要に

夏に向けて短期案件が増加し、短期案件へ応募する割合も増え続けていく傾向にあります。短期的な働き方の検討や、短期案件と差別化を図る打ち出しの工夫が必要となってきます。

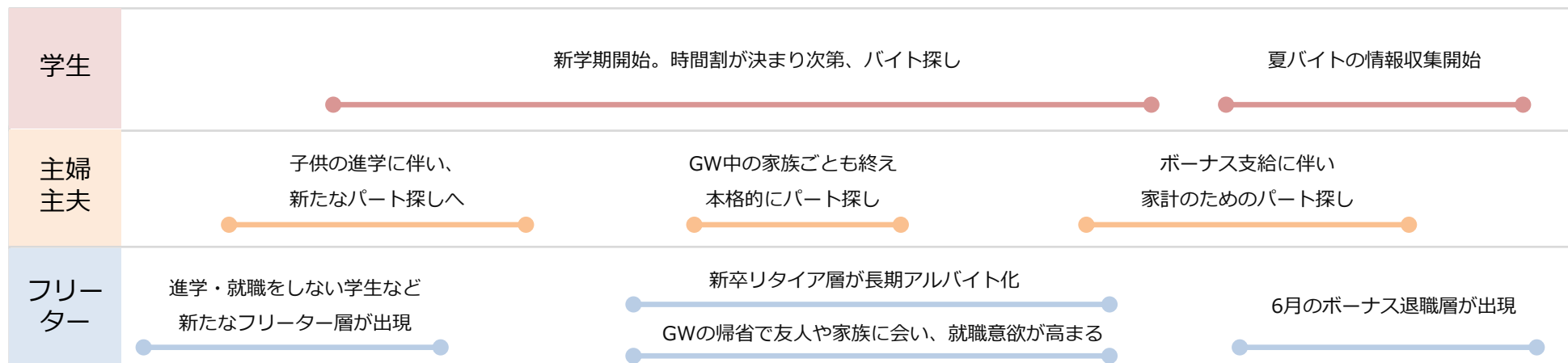
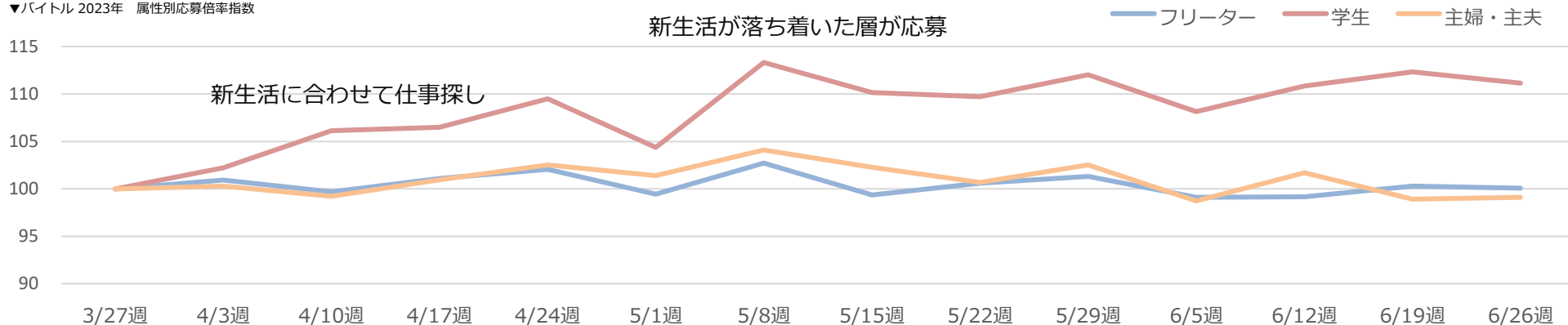


昨年同時期のバイトル応募効果から見る求人動向

属性別の求職者動向

新学期が始まり、学生や主婦（主夫）の仕事探しが活発になり、新たなフリーター層も出現。新大学生などバイトデビュー層もいるため、フォローの手厚さの記載など工夫もポイントです。

▼バイトル 2023年 属性別応募倍率指数



社員の求職者動向

人事異動への不満や、新たな職場への挑戦意欲から転職を検討する層が活発化。
GWやお盆には帰省をきっかけに転職を意識する層が、6月にはボーナス退職層が出現。

